

(1 次) 財務分析

1. 出題分析

全問マークシート方式の選択問題で、解答数は 60 問前後となっています。60%以上の得点を効率よく積み重ねるためには、出題傾向が安定している第 4 問の財務分析問題で、まとまった得点の確保を目指す必要があると思われます。また、第 1 問の正誤選択問題は、第 2 問、第 3 問の計算問題（会計処理等）の知識から正答を得られるケースも多いため、相互に関連付けた学習が効果的でしょう。

図表：財務分析大問別の配点

	H19 秋	H20 春	H20 秋	H21 春	H21 秋	H22 春
第1問 正誤選択問題	30	30	32	32	30	34
第2問 計算問題	12	20	14	14	16	12
第3問	18	14	18	18	18	18
第4問 財務分析問題	30	26	26	26	26	26

計 90 点

2. 主な学習（出題）内容

1 次財務分析の出題範囲は非常に広く、その全てを満遍なく習得することは学習上の負担が大変大きくなってしまいます。そのため、講義では過去の出題の傾向を勘案し下記の内容を中心とした論点を扱っていきます。

1) 財務会計総論

- ①貸借対照表（Balance Sheet：B/S）
- ②損益計算書（Profit and Loss Statement：P/L）
- ③制度会計

2) 資産会計

- ①金融資産（金銭債権、有価証券）
- ②棚卸資産（原価配分）
- ③固定資産（減価償却、リース会計、減損会計）

3) 負債会計

- ①社債の評価
- ②退職給付会計

4) 純資産会計

- ①株主資本
- ②包括利益

5) 損益会計

- ①販売形態別の収益認識基準
- ②外貨建換算（金銭債権債務、有価証券）

6) 企業結合会計

- ①合併会計
- ②連結の範囲
- ③資本連結
- ④税効果会計
- ⑤連結キャッシュ・フロー計算書

7) 財務諸表分析

- ①収益性分析
- ②安全性分析

8) 株式価値評価

- ①配当割引モデル（DDM）
- ②割引キャッシュフロー・モデル（DCF）
- ③残余利益モデル

3. 対策

分 野	出題形式	対 策
財務会計 財務諸表分析 株式価値評価	正誤選択	正誤選択問題では、特定の分野に偏ることなく幅広い出題が見られます。出題範囲すべての習得は負担が大きいため、まずは頻出論点の習得を優先させてください。具体的には、連結を含む財務諸表（B／S、P／L、CF計算書）、制度会計、純資産会計、有価証券（外貨建含む）、販売形態別収益の認識、（棚卸資産、減価償却など）会計処理の違いが利益に与える影響、退職給付会計、企業結合会計、税効果会計、残余利益などの論点です。また、分析に関する問題もほぼ毎回出題されており、注意が必要でしょう。
	計算問題	計算問題では、棚卸資産の原価配分、有価証券の評価、リース会計、減損会計、請負工事、企業結合会計、株式価値評価などの論点が繰り返し出題されています。過去の出題と同様の計算手順で正解できる問題も多く存在するため、特に過去の問題の反復練習が有効です。なお、第3問の総合計算問題は、第2問に比較し難易度が高い傾向のため、解法の不明な問題等に深入りしない注意が必要です。
財務諸表分析	総合問題	分析総合問題は、1次試験の全配点の30%程度を占めており、その出来不出来が合否に直結すると考えられます。収益性分析と安全性分析を中心とした出題で、出題される財務指標も安定しているため、正誤選択や計算問題よりも、得点を伸ばしやすいと言えます。ただし、問題文や財務諸表など与えられる資料が非常に多いことから、限られた時間で効率よく解答を導き出すための対策が必要となります。 具体的な対策としては、過去の問題等を使用した、定期的な反復練習が有効となります。また、繰り返し問題を解く中で、基本テキスト等を活用し、頻出の財務指標を中心に、その計算式とそれぞれの指標が意味する内容の習得を図ってください。適切な財務指標の選択を素早く行うためには、それぞれの財務指標の意味する内容を理解している必要があり、また、財務諸表から必要な数値を素早く取り出すためには、計算式を正確に記憶していることが必要です。 正確さに加え速さも要求されていることを念頭に、準備を進めることが重要です。